

救急領域における循環器バイオマーカーの有用性

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 CAI 事業部疾患マネジメントグループ

横山 知子

発症から 24 時間以内に死亡に至ることを「突然死」といいます。突然死のうち、原因が特定できるもので最も多い原因疾患が心疾患です。心疾患では、症状が起こってから 1 時間以内に亡くなってしまうことも少なくありません。心疾患は早期に発見して適切な治療を行うことで、生命予後の改善が期待できます。

現在、心疾患バイオマーカーのうち、ナトリウム利尿ペプチド（BNP、NT-proBNP、ANP）は主に心不全診療、トロポニン（トロポニン I、トロポニン T）、ミオグロビン、CK-MB、H-FABP は主に急性冠症候群の診療に広く臨床応用されています。

本セミナーでは、心疾患の中でも特に救急疾患にフォーカスして、早期診断、適切な治療選択のためにバイオマーカーがどのように臨床貢献しているか、ガイドラインなどのエビデンスに基づいて紹介します。

また、乳児突然死症候群の 16－20%、青年期心臓突然死の 17%が心筋炎との報告もあること、ならびに平成 24 年度診療報酬改定の際に“心筋炎の診断目的に心筋トロ

ポニン I の算定が可能”と公示されたことを踏まえて、心筋炎における血中心筋トロポニン I 測定の有用性についても併せて紹介します。

連絡先: CAI 事業部疾患マネジメントグループ 03-3493-7670